

カワアイサの珍しい行動
採餌
助走飛び立ち
そして 美しいメス について

三宅 慶一

カワアイサが、水面上で、からんでいるセグロセキレイを見つけた。
カワアイサはセグロセキレイに接近し、それを捕獲しようとした一例。

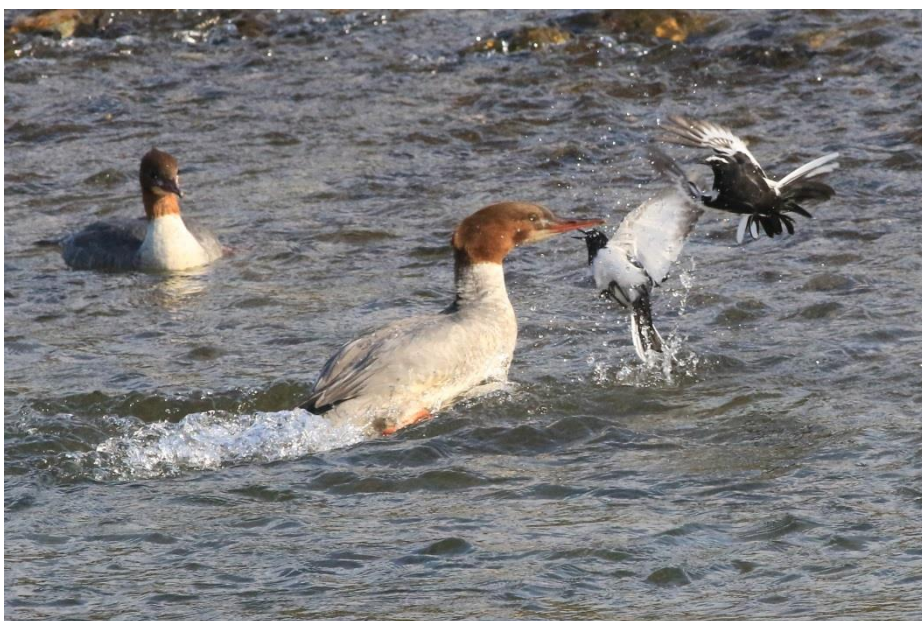


場面右の鳥は、セグロセキレイであり、2羽が水面上で上下に絡み合っているところである。このセグロセキレイの行動は、カワアイサの観察に集注していた私には、突然の出来事であったので、2羽が喧嘩しているのか交尾中なのか判断できなかった。

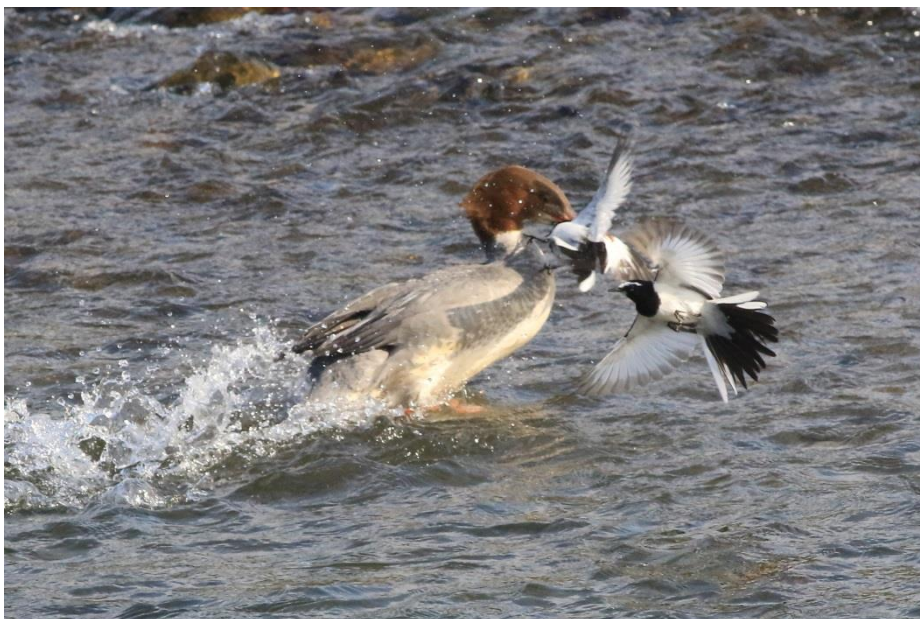
1羽のカワアイサが、絡んでいるセグロセキレイに注目し、接近するところである。2羽のセグロセキレイは、まだカワアイサの接近に気付いていない。画面上のもう1羽のカワアイサは、始終無関心無反応であった。



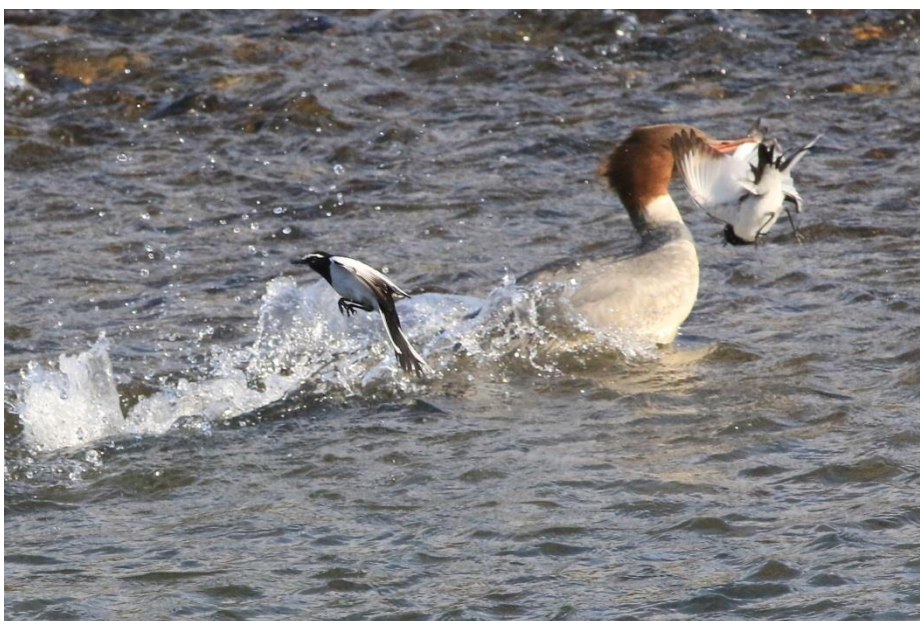
上側のセグロセキレイが、接近するカワアイサに気づき離れるところ。
下側のセグロセキレイは、すぐに飛び上れない。



下側のセグロセキレイも飛び上るが、遅かった。



逃げる行動がすぐにできなかつた下側のセグロセキレイは、カワアイサに捕まってしまう。



カワアイサは、セグロセキレイの第一風切羽の部分を掴んだ。



カワアイサのノコギリ歯状に発達した板歯の滑り止め効果なく、くわえられていたセグロセキレイの羽はカワアイサの嘴から抜けた、そしてセグロセキレイの身体は、カワアイサの脇腹のすぐ横に落ちた（赤矢印）。



落ちたセグロセキレイは飛び上ろうとしている。カワアイサは、身体を反転して再度捕獲しようと試みる。しかし身体が重く動作は鈍い。



セグロセキレイは水面から飛び上がることができた。私は「はやく逃げろ」と叫びたくなる。カワイイサには悪いけれど。



先に逃れたもう1羽は近くに来てくれていたのだ。2羽のセグロセキレイは、並んで同一方向に飛び去っていく。このことは、この2羽は、喧嘩をしていたのではなく、仲良くしていたのかもしれない。

☆疑問1) カワイイサは小鳥を捕獲して食べるのだろうか。な

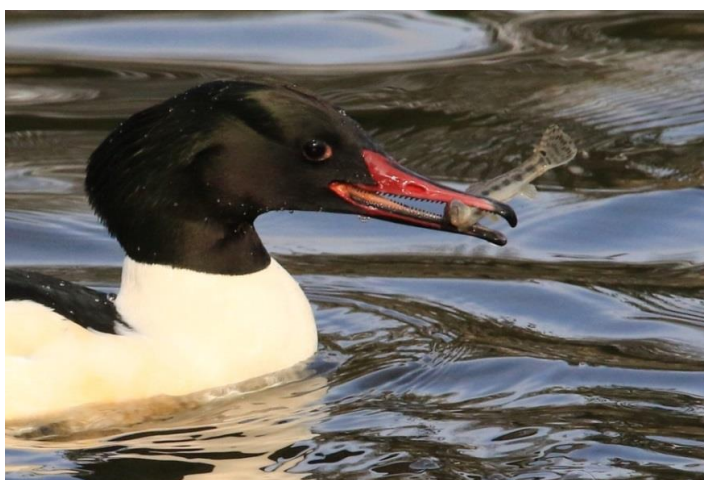
ぜ、この場にいたもう1羽のカワアイサは、なぜ小鳥に無反応であったのだろうか。小鳥を餌として獲物としての認識をしているのだろうか。

☆疑問2) セグロセキレイは水面上で交尾をすることがあるのだろうか。喧嘩なら、この2羽は反対方向に逃げ去るか、もっと離れているのでは、とおもう。



カワアイサは、自分より大きいコサギに対しても注文をつける。

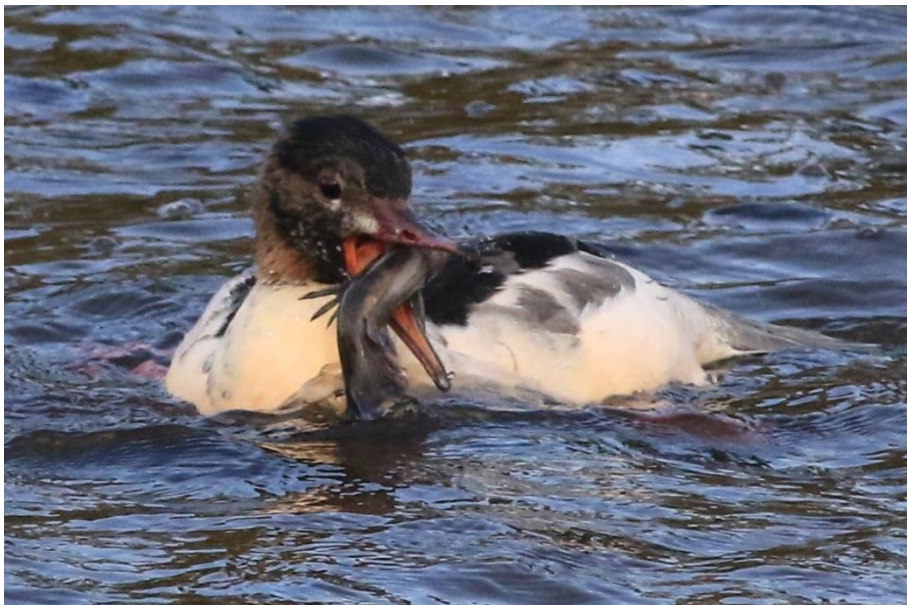
鴨川での獲物



シマドジョウ



シマドジョウ



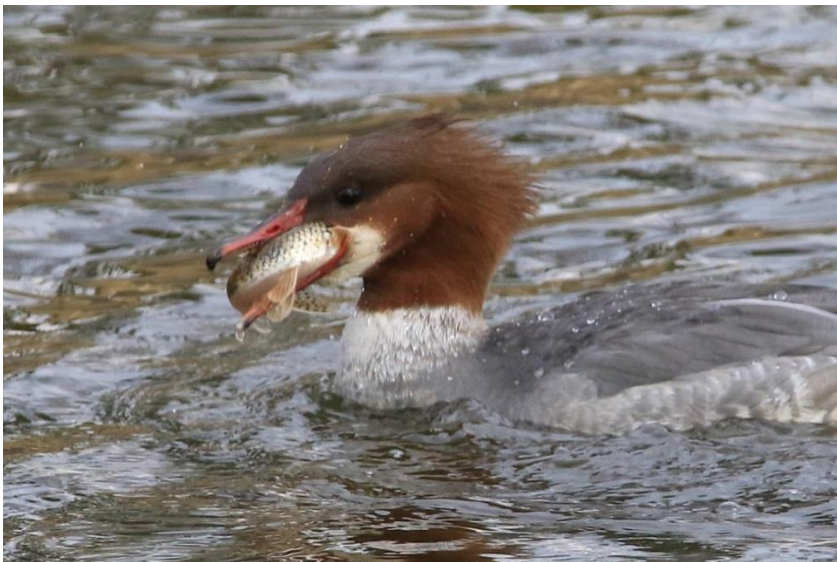
ギギ

このギギ2枚の写真のカワアイサは、オスのエクリップス羽で、今まさに換羽中です。11月上旬に飛来したエクリップス羽模様のオスは、12月上旬

までに成熟オス羽模様になる。



ギギ



カマツカ

近年鴨川において、カワアイサの飛来数増加の一因として、鴨川が整備計画のもと、鴨川の環境が改善され、水質が良くなり、鴨川の棲息魚数が増えたことが考えられる。

カワアイサの助走飛び立ち



この場面をみて分かるように、カワアイサが水面から飛び上るには、相当長い助走が必要です。中州が多く滑走路の長さが確保できないところには、カワアイサの飛来がないとおもわれます。

近年鴨川において、カワアイサの飛来数増加の一因は、鴨川整備計画のもと、部分的に中州を除去したため、カワアイサの離陸飛翔に必要な長い滑走路ができたからと考えられる。



カワアイサの力強い飛び立ちです。潜水採餌する鴨は、水面採餌する鴨より、足が比較的后方についています。このことは、潜ることや水中を泳ぐことに適していますが、歩くことや飛び立ちには適していないようです。



カワアイサは鴨の中でも身体が大きく重い。このため離水しても上昇は緩やかです。この個体は、エクリプス羽から換羽途中のオス。



後方に位置する足が観察できる

くつろいでいるカワイスの雌は、とても美しい





風になびくカワアイサ雌の冠羽は、とても魅力的

今年度冬期（2017年11月～2018年3月）の鴨川には、カワアイサが多数飛来しています。ぜひ鴨川に、カワアイサの観察にお越しく下さい

2018年2月 野鳥生態観察家 三宅 慶一